

- 問1 2022年の農産物の都道府県別生産割合を示す統計において、北海道が56.6%と過半数を占め、次いで熊本県、栃木県、群馬県、岩手県がわずかな割合で続いている農産物があります。牛などから搾ったままの状態である、この産品の名称として正しいものはどれですか。 (2024年 愛媛県公立入試 類似)
1. ジャがいも                      2. りんご                      3. さくらんぼ                      4. 生乳
- 問2 秋田県、静岡県の日鷹川流域、および奈良県の吉野地方は、日本の林業において非常に重要な役割を果たしている地域です。これらの地域で共通して大規模に生産され、日本の住宅建築などに広く利用されている代表的な針葉樹の名称を選択してください。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)
1. クヌギ                      2. ブナ                      3. スギ                      4. ヒノキ
- 問3 日本の水産業で行われている「育てる漁業」のうち、卵からふ化させた稚魚を一定の大きさまで人工的に育てた後、自然の海や川へ放流し、成長してから漁獲する仕組みを何といいますか。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
1. 沖合漁業                      2. 養殖業                      3. 栽培漁業                      4. 遠洋漁業
- 問4 人口ピラミッドの底辺部分が年々狭まり、全体の形が「つぼ型」へと変化していく背景にある、現代日本の社会的な要因の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。 (2016年 愛媛県公立入試 類似)
1. 乳児死亡率の上昇による子供の減少と、都市部への人口集中による過密化                      2. 出生率の低下による子供の減少と、平均寿命の伸びによる高齢者層の拡大                      3. 高度経済成長に伴う労働人口の増加と、若年層の地方移住による過疎化                      4. 第3次ベビーブームによる出生数の増加と、海外からの移民受け入れによる人口増
- 問5 人口ピラミッドの形状が、裾野の広い「ピラミッド型」から、中間層が厚い「釣鐘型」、そして若年層が細い「つぼ型」へと移行する背景にある理由として、適切な説明はどれですか。 (2021年 高知県公立入試 類似)
1. 都市部への人口集中が加速したことで、農村部の若年層が急増し、全体の人口構成が若返ったため。                      2. 出生率が急上昇したことと若年層が膨れ上がり、過去に生まれた世代が順次亡くなっていくサイクルが早まったため。                      3. 出生率が低下して子どもの数が減るとともに、衛生環境の改善や医療技術の向上で平均寿命が延びたため。                      4. 高齢化率が低下し、生産年齢人口の割合が常に一定に保たれるような人口抑制政策がとられたため。
- 問6 資源を有効活用する「エコタウン事業」に取り組む地域では、二酸化炭素の排出抑制を目的に、風力発電施設や太陽光発電施設が積極的に導入されています。このように、風や太陽光など自然界に常に存在し、繰り返し利用できるエネルギーを何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。 (2017年 長野県公立入試 類似)
1. 火力エネルギー                      2. 化石燃料エネルギー                      3. 自然エネルギー（再生可能エネルギー）                      4. 原子力エネルギー
- 問7 ある輸送手段の統計において、輸入品目の上位に「医薬品」や「科学光学機器」が含まれ、輸出品目の上位に「IC（集積回路）」などの電子部品が含まれる特徴を持つ交通手段があります。この交通手段を選択する際の根拠として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 天候による欠航のリスクが船舶よりも低く、一年を通じて計画的に大量の石炭や液化天然ガスを安定供給できるという根拠。                      2. 輸送費用が高い反面、高速での移動が可能のため、製品の付加価値が高く軽量なものの輸送において利点が多いという根拠。                      3. 一度の輸送で運べる重量が他のどの交通手段よりも大きいため、重量あたりの輸送コストを最小限に抑えられるという根拠。                      4. 日本国内のすべての空港に保税倉庫が完備されており、海上輸送に比べて通関手続きにかかる時間が法律によって短縮されているという根拠。
- 問8 日本の林業では、従事者の減少や高齢化が深刻な課題となっています。林業に従事する人々の平均年齢について、ある制度を利用した層は約40歳であるのに対し、それ以外の層は約55歳であるという統計があります。このように、林業の担い手不足を解消するために導入された、未経験者が現場で技術を学びながら働けるよう支援する制度の名称を何といいますか。 (2020年 徳島県公立入試 類似)
1. ウッドマイルズ                      2. 地産地消                      3. 緑の雇用                      4. 森林環境税
- 問9 日本地図上で帯状に示される太平洋ベルトの西端に位置する福岡県では、古くから重化学工業が発展してきました。この地域における工業の興りについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 愛媛県公立入試 類似)
1. 本州と四国を結ぶ交通の要所に位置することを活かし、石油化学コンビナートが次々と建設された。                      2. 広大な平野と豊かな水資源を活かし、江戸時代から続く繊維工業を機械化することで近代工業化を成し遂げた。                      3. 山陰地方の豊富な森林資源を加工し、住宅建材やパルプを全国に供給する拠点として発展した。                      4. 筑豊炭田の石炭や海外から輸入した鉄鉱石を利用するため、官営の八幡製鉄所が設立されたことで発展した。
- 問10 ある地域の夜間人口に対する、通勤・通学者を含めた昼間人口の割合を昼夜間人口比率といいます。この比率が100を下回る地域で見られる、一般的な状況を説明したものとして最も適切なものを選びなさい。 (2015年 鹿児島県公立入試 類似)
1. オフィスや商業施設が集中しており、昼間に他の地域から多くの人が流入している。                      2. 工場などの生産拠点が集まっているため夜間の人口が非常に多い。                      3. 住宅地が多く、平日の昼間は他の地域へ通勤・通学する人が多いため、夜間人口よりも昼間人口の方が少ない。                      4. その地域の夜間人口と昼間人口がほぼ等しく、地域内での雇用の場と住居のバランスが保たれている。
- 問11 日本の人口分布について、1950年と2020年の統計を比較した資料に基づくと、東京圏、大阪圏、名古屋圏を合わせた「三大都市圏」の人口割合には大きな変化が見られます。現在の日本における三大都市圏の人口状況を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。 (2025年 秋田県公立入試 類似)
1. 地方圏での人口増加が著しく、三大都市圏が占める人口の割合は1950年よりも低下している                      2. 東京圏への一極集中は進んでいるが、三大都市圏の合計では総人口の3割程度にとどまっている                      3. 名古屋圏と大阪圏の人口が激減したため、三大都市圏の合計人口は減少傾向にある                      4. 東京圏、大阪圏、名古屋圏の合計人口が、日本の総人口の5割（半分）を超えている
- 問12 日本の社会基盤の推移について述べた統計において、1950年には20%台だった水道普及率が、1955年から1975年にかけて急激な右肩上がりを見せ、90%近くにまで達している状況が確認できます。このようなインフラの急速な整備が行われた背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
1. 第1次石油危機の発生を受け、省エネルギー型の産業構造への転換が優先された。                      2. 年平均10%程度の高い経済成長率が続き、工業化と都市化が急速に進んだ。                      3. 地価や株価が異常に高騰し、資産価値の上昇によって消費が爆発的に増えた。                      4. 朝鮮戦争による特需の影響で、一時的に重化学工業が飛躍的に発展した。